



## ツツジ（躑躅）

晩春、燃え立つような紅色をはじめ色彩鮮やかなツツジは、庭先、公園、街路など至る所で華々しく咲き出します。

「ツツジ」というのは、同系植物の総称で、単にツツジという植物はありませんが、漢字では「躑躅」という大変難しい字を書きます。これは、「足踏み、ふらつく」というような意味で、ツツジの中でも毒のあるレンゲツツジを牛などが誤って食べ、毒にあたってふらふらした様子を表したものだそうです。

日本では、世界で最も多い約50種の野生種が自生するほか、栽培が簡単のため園芸品種も多数あり、万葉の昔から大変親しまれてきました。

「水伝ふ磯の浦廻の石つつじ

茂く咲く道をまた見なむかも」

菖壁の皇子舎人